日本教師台湾訪問研修

台湾訪問研修に参加して

丸亀市立郡家小学校　谷上　ひろみ

今年で３９回となる日本教師台湾訪問研修に参加させていただき、初めて台湾を訪れた。

「日台教育学術研究会」や台湾教育省訪問等の公式行事に参加したり、現地の公立小学校を２校訪問し実際の教育現場の様子を見聞したりという経験を通して、台湾と日本の教育や文化の違いを肌で感じることができた貴重な５日間であった。

私がこの研修で特に印象に残ったことは、台湾と日本のつながりの深さである。各地を見学する度に目にする日本にゆかりのある建物や名所。中でも日本統治時代に台湾の教育に貢献した先人である六氏先生（ろくし）の碑に出会えたことに深い感動を覚えた。また、交流会での現地の教育関係者の方々との語らいを通して、台湾と日本の精神的な距離の近さも感じることができた。

そして、もう一つこの研修で得たものがある。それは、全国各地から集まった先生方との出会いである。北は青森から南は宮崎まで、それぞれの学校現場で奮闘されている先生方の話を聞くことができ、たくさんのエネルギーをいただけた。この経験を活かして、これからもいろいろなことに前向きにチャレンジしていく人生を送っていきたいと思う。

六氏先生は、日本統治時代の台湾に設立された小学校、芝山巌学堂（しざんがんがくどう）で抗日事件により殺害された６人の日本人教師のことである。現在、教育に命をかけた「六氏先生の墓」は再建され、「学務官僚遭難之碑」も復元されている。

東京専従日記

全日本教職員連盟　事務局次長　弘瀬　雅一

節分が過ぎ、暦の上では春ですが、まだまだ草花の萌芽には程遠い日が続いております。東京でもまるで寒さから逃れるかのように足早に駅へと向かう人々の姿をよく見かけます。

さて、今回は、東京都内の香川県にゆかりのある場所について２点紹介します。御存知の方もおられるかもしれませんが、東京にお越しの際にはぜひお立ち寄り下さい。

①こんぴらさん

東京都港区にある虎ノ門。オフィスや商業施設の超高層ビルに囲まれた中に、なんと「こんぴらさん」があります。

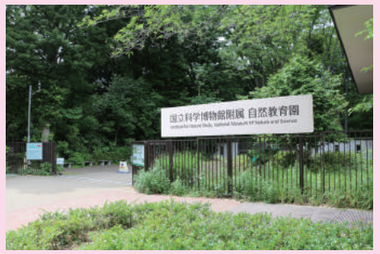
正式には「虎ノ門金比羅宮」といい、東京都生活文化局によると一六六〇年に讃岐丸亀藩主の京極高和が、領地である讃岐の金比羅大社を江戸の三田にある屋敷の邸内社として勧請したことが始まりだそうです。その後、場所を虎ノ門に移し現在に至ります。ちなみに本場讃岐のこんぴら人気が高まった文化年間（一八〇四年～一八一八年）に、京極家では毎月十日に限り一般の参拝を許したため、大変賑わったとされています。

今もスーツ姿のビジネスマンがお参りしている姿が多くあり、印象的でした。

②国立科学博物館附属自然教育園

二つ目は、港区白金台にある国立科学博物館附属自然教育園です。古代より武蔵野の原生林でおおわれていたこの地は、昭和二十四年に天然記念物及び史跡に指定されました。自然教育園の方の説明によると、自然教育園を含む六万坪の森には、シイ・マツ等の常緑樹やコナラ・ケヤキ等の落葉樹がうっそうと茂り、湿地や草原がある場所をこんぴら人気が高まった文化年間（一八〇四年～一八一八年）に、京極家では毎月十日に限り一般の参拝を許したため、大変賑わったとされています。

国立科学博物館附属自然教育園



虎ノ門金比羅宮

そんな一見関係なさそうな自然教育園の香川との接点は、実はこの地は江戸時代に高松藩主松平頼重の下屋敷だったということです。松平頼重は高松藩の初代藩主であり、徳川光圀（水戸黄門）の兄として知られていますね。もちろん下屋敷なので藩主が常住したわけではありませんが、豊かな自然の中、香川にゆかりのある方のお屋敷がかつてあったことに思いを馳せながら自然教育園内をお散歩することもお薦めです。

東京と香川のつながりについては歴史、スポーツ・文化等においてまだまだありそうです。社会の授業等においてぜひ子どもたちにご紹介ください。

会員の声

皆さん１月号の「大人のいじめ対応姿勢５ヶ条」の答え、わかりましたか？

⑤いじめっ子だって（　　）。いじめっ子の抱えるストレスにも目を向けて

答えは、（泣いている）でした。加害者側は、家で虐待や体罰を受けているかもしれない。いじめの連鎖の中で起こったのかもしれない。だからこそ仕返しではなく仲直りを目指す。「修復的」なアプローチが必要ということです。

たくさんのご応募ありがとうございました。

今回は、高松・香西小畠山玲子先生に図書カードをプレゼントいたします。おめでとうございます。

今月のクイズは、「特別じゃない特別支援教育を」から。

不適切な関わりや子どもの成長・発達を妨げる関わり方を○○○○○○○○○といいます。

○の中に入る文字は何でしょう？

（ヒントはカタカナです。）

（応募の仕方）

下の QR コードを読み取って、所属校、名前、答え、感想・御意見を記入して送信して下さい。応募して下さった方の中から抽選で図書カードをプレゼントいたします。

第２回採用試験対策部研修会の御案内

令和６年度教員採用試験に向けて、スタートを切りましょう！第１回目は１月１９日に教職教養と一般教養・専門教養の模試を行う予定です。詳しくは、ＨＰをご覧下さい。

第２回目は、教職教養・一般教養・専門教養です。なかなか忙しくて、採用試験に向けての勉強どころではないかもしれませんが、こういう機会を利用して、地道に前へ進んでいきましょう。

日　時　令和６年３月２日（土）
　　１８：００～２１：３０
場　所　香川県教育会館　第３会議室
　　高松市西宝町２丁目６－４０
受験料　教職教養１４３０円　一般教養１４３０円
　　教職教養＋一般教養１９８０円
　　専門教養１９８０円

お申し込みは、
右 QR コードから　→

特別じゃない特別支援教育を⑱

がまぐち先生

今回で3回目になります。私たち教員は、ついつい、自分の基準に相手を当てはめて変えようとしてしまうところがあります。

校内研究のテーマに「○○な子どもの育成」というのがありますね。確かに大事だと思うのですが、そのテーマの設定に至るプロセスが果たしてどんなものであったかということは、振り返りたいものです。

例えば「人の話を聞けない子が多いよね。じゃあ、『話を聞ける子の育成』だね」とか「考えて動ける子が少ないよね。じゃあ『自ら考え行動する子の育成』だね」といったプロセスを経てテーマが決定されてしまうと、結局は教師の想定する「枠組み」に当てはめるような研究になっていくわけです。いわば「ないものねだり」です。

私たち教員は、常に「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」ができるように心がけていきたいと思います。

子どもはみんな金平糖のような育ちをします。じっくりと時間をかけて大きくなっていくし、どの子もみんな、完璧な球体ではなくて多少なりともでこぼこがある。それに対して、大人から見て直したいところ（トゲ）を取ろう、といった発想が生まれがちですが、それ自体がもうないものねだりです。私たちが目指すべきところはあるもの探しではないでしょうか。その子が「育ちたい」と思っているプラスの面を発見して、余白や伸びしろを育てていくような発想に変わっていけるといいのではないかと思います。

まずは、その子を「外れる」「はみ出す」「かき乱す」存在と見るのではなく、「関わりの糸口を見出す楽しさをもたらす存在」だと見ていきたい。

私たち教師が目指すべきところは、自分自身を振り返るということだと考えています。「今、目の前で起きている不親切な関わり」は、私たちの子ども理解の守備範囲を広げることによりかなり防げるのではないか、ということです。

特別支援教育とは「上手くいかない」ことがある子どもも「価値」を高めていく教育であり、「できない子」「ダメな子」の教育では決してありません。

来月が最終回となります。

←今月のクイズの申込み用ＱＲコード

１月　業務抄

3-6 日　全日教連　台湾訪問
　丸亀　郡家小　谷上ひろみ先生参加
６日　第４回会長・局長会
　第２回人事対策委員会
１２日　幼児教育部研修会
　丸教協協議員会
１９日　第１回採用試験対策部研修会
２０日　山口県教連結成 70 周年記念大会
　高木委員長参加
２５日　東部教育事務所人事要望
27-28 日　全日教連執行委員会・評議員会
３１日　西部教育事務所人事要望